

「内側と外側」

イエス様が福音書を通じて私たちに語りかける言葉は、すべて私たちが「より良く生きることが出来るように」という神様の御心に根差した、神様から出た言葉です。だからこそ私たちは、そのイエス様の言葉に従えば、堂々と信仰の中で歩みさえすればいいのです。

ただ、今日の聖書個所で言われているように、イエス様を信じているからと言って「何をしてもいいわけではない」ということは、肝に命じておかなければいけません。イエス様はユダヤ人たちや律法学者、特にファリサイ派の人々に対して強い口調で「あなたがたには報いが訪れる」「あなたがたに災いあれ」と、呪いの言葉と言えるほどの強い言葉を語っています。

そこまで言うほどに、彼らが行っていた「偽善」と呼ばれる行動は、地獄に落ちても仕方がない程の行動でした。ここで偽善と表現される行動の特徴は、「表面上はいいことをしている」という部分に共通点があります。「手に入れたものは全て十分の一を献げる」などの人から見える部分は立派にしておきながら、彼らの内面は全く持って信仰的ではありませんでした。会堂で堂々と捧げものはするけれども、貧しい人、苦しんでいる人への慈悲の心はありません。誰にも見えないからと、心の中は欲望と自分勝手な思いであふれそうな様子です。

そのように、「見えない部分は適当でいい」「自分勝手にいい」と考えるということは、すべてを見通す神様に対して「私はあなたが何でもお見通しだとは思っていない」「私の心の中までは見えないだろう」と、神様のことを低く見てしまうことにつながります。自分が正しいと考える、自分に逆らう者は間違いであると考えその行動の先には、自分自身の心で人を裁くような、偽善を越えて自分を神にしてしまう偶像崇拜の心が待っているのです。

このように、今日の聖書の言葉は私たちに対して、「彼らのような偽善者になってはいけない」と語り掛けています。私たちがそのようなにならないためには、まず根本的に「自分は正しくあることが出来ない」という部分から、信仰を始める必要があります。私たちはかつて、イエス様に出会い、自分の不完全さを直視して悔い改めへと導かれました。自分ではなく神様が正しいことを知ったその時から、私たちは不完全な私たちを「救おう」としてくれた神様の愛の深さを知るのです。そして、その為に遣わされたイエス様の言葉が、私たちを完全な神様の愛の実現へと導いてくれている、だからこそ私たちは、「不完全でもいい」と、今の自分自身を肯定することが出来るのです。

私たちの内側は、時に決して人に見せることが出来ないほどに、いびつになってしまったり、不完全で罪深い思いを抱いてしまうこともあります。しかし、それを取り繕うのではなく、ただ神様に対しては、そのすべてを祈りの中でさらけ出すことが出来ます。その祈りの中で、不完全である私をそのまま愛してくれている神様に出会うことができ、このゆるされている私たちの人生を、これからも続けていくことが出来るのです。それが、私たちの行く先が地獄ではなく神様のみもとであるという希望に強められた、私たちの信仰なのだと思います。

今のままでいいと、私たちのことをゆるしてくれている神様の慈しみ深さに感謝をしながら、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マタイによる福音書 23 章 23～36 節

- 23:律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは、ミント、ディル、クミンの十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な公正、慈悲、誠実をないがしろにしている。これこそ行うべきことである。もっとも、十分の一の献げ物もないがしろにはできないが。ものが見えない案内人たち、あなたがたは、ぶよは漉して除くが、らくだは呑み込んでいる。律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは、杯や皿の外側は清めるが、内側は強欲と放縦で満ちている。ものが見えないファリサイ派の人々、まず、杯の内側を清めよ。そうすれば、外側も清くなる。律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。
- 28:このようにあなたがたも、外側は人に正しいと見えても、内側は偽善と不法とでいっぱいである。律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは預言者の墓を建てたり、正しい人の記念碑を飾ったりしている。そして、『もし先祖の時代に生きていたなら、預言者の血を流す側には付かなかったであろう』などと言う。こうして、自分が預言者を殺した者たちの子孫だと、自ら証明している。あなたがたも、先祖たちが犯した罪の升目を満たすがよい。蛇よ、毒蛇の子らよ、どうしてあなたがたはゲヘナの裁きを免れることができようか。だから、私は預言者、知者、学者をあなたがたに遣わすが、あなたがたはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、ある者を会堂で鞭打ち、町から町へと迫害して行くであろう。こうして、正しい人アベルの血から、あなたがたが聖所と祭壇の間で殺したバラキアの子ゼカルヤの血に至るまで、地上に流された正しい人の血がことごとく、あなたがたに降りかかってくる。よく言うておく。これらの報いはみな、今の時代に降りかかってくる。』